



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第一五三号〜

穀雨

四月二〇日



## 浜参宮

四月に入って、二見浦へお参りに行く浜参宮が始まりました。浜参宮というのは、この夏に行われる御白石持行事に参加する人々が、身を清めるためにかつての禊の浜、二見浦にお参りするというもの。各町で結成された御白石持奉献団ごとに揃いの半被を着用してのぞみます。

内宮前は宇治奉献団ができています。浜参宮は四月七日でした。ほとんどの奉献団は貸し切りバスを使いますが、宇治奉献団はバスだけでなく、徒歩で行くのが昔からの伝統。実は当日、台風並みに発達した低気圧の影響もあり、早朝雨こそ上がっていましたが、風が強く、徒歩は中止かと思ひ、私は先回りして二見浦で奉献団を待っていました。この日は一〇の奉献団が浜参宮に来ており、さまざまな半被を着た奉献団とすれ違いました。

聞きなれた木遣りが聞こえてくると、赤い旗に宇治奉献団と白く抜かれた文字が見えてきました。参加者は五〇〇人ほどといえますから、大奉献団です。聞けば、約二〇〇人が早朝集合し、列をなして徒歩で来たとのこと。驚きました。ただ途中で風雨が強まったため、やむなく朝熊町でバスに乗り換えたということでしたが、伝統を守る気持ちの強さが伝わってきます。

二見興玉神社では、お祓いを受け、木遣りを奉納。「宇治が揃いて、浜参宮」の言い回しに、皆で浜参宮に来る喜びを感じました。海風と潮しぶきを浴びたせいとか、お参りすると清々しい気持ちになりました。さすがに「清渚」と呼ばれた二見浦です。

そのあとは、外宮と内宮で御垣内参拝を行いました。朝から雨が降ったりやんだりの天候で、肌寒い日でしたが、宇治奉献団の鮮やかなブルーの半被はどこでもよく目立っていました。

浜参宮はしばらく続きます。

文 千種清美



伊勢内宮前